

令和7年度 第4回可児市上下水道事業経営審議会議事録

【日 時】 令和7年12月12日（金曜日）午後4時から午後5時15分まで

【場 所】 可児市役所 4階第3会議室

【出席者】 審議会委員10人、事務局12人

1. 部長あいさつ

今年も残りわずかとなりましたが、本日はお忙しい中、第4回可児市上下水道事業経営審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

さて、本日の審議会では、前回協議いただきました内容を取りまとめた「可児市下水道事業の適正な使用料について」の答申書案について、ご協議いただくとともに、令和6年度の上下水道事業の決算状況等についてご説明させていただきます。

委員の皆さんには、それぞれの立場から、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

2. 会長あいさつ等

【会長あいさつ要旨】

お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。だいぶ寒くなってきました。今年最後の経営審議会も円滑に議論できればと思います。ご協力をお願いします。

【定足数】

会長より定足数（10名出席）を満たすことの説明

【議事録署名者】

会長より議事録署名者として小西委員と豊場委員の指名

3. 議題

以下の議題について、事務局説明と質疑応答を行った。

- (1) 【諮問事項】 可児市下水道事業の適正な使用料について
 - ・答申書（案）について
- (2) 令和6年度水道事業の決算状況について
- (3) 水道事業経営戦略 令和6年度決算モニタリングについて
- (4) 令和6年度下水道事業の決算状況について
- (5) 下水道事業経営戦略 令和6年度決算モニタリングについて

発言者：☆=会長 ○=委員 ●=事務局

(1) 【諮問事項】可児市下水道事業の適正な使用料について

- ・答申書（案）について

●上記の議題について説明

☆答申書の概要について説明いただいた。前回の審議会の方針通り、現在の使用料水準が適正であるため、維持するということと、1人・2人世帯の井戸水の認定水量を現状に合わせて、それぞれ1m³減らすという内容である。それ以下の部分は、これまでの審議内容を簡潔にまとめていただいたものである。これまでの説明や文面について、修正等の意見はあるか。

○この答申書の内容で問題ないと思う。

☆会長と副会長の間で全体を精査し、多少修正する可能性はあるが、この内容の答申書を市長に提出する流れで進める。

(2) 令和6年度水道事業の決算状況について

(3) 水道事業経営戦略 令和6年度決算モニタリングについて

●上記の議題について説明

☆前年度決算と比較すると、それほど大きく変化しているところはないと思われる。資料2の損益計算書の雑収益について、「不用品売却収益(量水器)の増」とあるが、不用な量水器があったということか。

●そうである。令和5年度までは1度使った量水器は整備して、再利用していた。しかし、管理が非常に大変であるため、令和6年度からは1度使ったものは売却し、在庫を持たない方針に変更した。その方針の変更に伴って得られた収益である。

☆市内全域の量水器が対象か。

●そうである。

☆このような雑収益は今年度だけということか。

- これからは回収した後、その都度すぐに売却する。在庫を抱えることがなくなるため、令和6年度のような大きな収益は発生しないが、収益は毎年ある。

☆理解した。

○資料3の6ページの管渠更新率について、令和6年度は計画の年度であり、低かったとのことだが、工事の発注額は年度で平準化したほうが、工事業者にとってはありがたいのではないかと思う。

- 水道事業整備計画では毎年7億5000万円程度を管渠更新に充てることにしている。今後はそれに近づくように平準化していきたい。

☆通常は工事を行うことで、有収率も上昇するというイメージである。令和6年度は管渠更新率が低かったが、有収率は上昇している。何か理由はあるか。

- 漏水調査を強化したことが理由である。調査で見つかった漏水箇所を隨時修繕しているため、有収率が上昇した。

☆引き続き調査を着実に進めていただければありがたいと思う。

☆資料2裏面の貸借対照表の現金預金について、約35億8000万円あるが、有価証券を購入するなどの運用はしないのか。

- 今年度、地方債を中心に新たに約2億円の有価証券を購入した。

○先ほど漏水調査を強化したと話があったが、強化することにした理由はあるか。

- 資料3の5ページの有収率を見ると、年々下がってきており、令和3年度は最も低い88.62%となっている。有収率がこのまま下がり続けることは望ましくないため、漏水調査を強化する方針とした。そのため、令和4年度から有収率が回復してきている。

☆漏水箇所には年度や材質など、何か特徴はあるのか。

- 配水管は塩ビ管の経年劣化によるものが多い。各家庭にある給水管についても、経年劣化により割れた箇所から漏水するケースが多い。

☆最近、全国各地で大きな漏水があるが、可児市はそのような大きな漏水はないか。

●ない。

○資料2裏面の貸借対照表を見ると、令和6年度は前年度よりも2億3000万円ほど資産が増加している。増加した理由は何か。

●未収・未払金が現金預金の増減に大きく関わる。しかし、減価償却費等の増減の影響もあるため、一概に毎年増えるわけではない。

☆令和6年度の資産の合計は約215億円であり、前年度の約213億円と比較すると、1%ほどの増加であるため、誤差程度の増加であるということか。

○そうである。

●前払金が令和6年度に大きく増えている理由は何か。

○年度によって前払金のある工事の有無が変わってくるためである。

☆工事を契約した後、支払いのタイミングが年度末を過ぎてしまうと、未払金として計上されてしまう。これについては、会計上発生してしまうものであるため、あまり気にする必要はないものである。

(4) 令和6年度下水道事業の決算状況について

(5) 下水道事業経営戦略 令和6年度決算モニタリングについて

○繰入資本金と引継資本金の違いを教えてほしい。

●繰入資本金とは一般会計負担金の元金償還に充てたものである。組入資本金は議決後の剰余金処分により利益を組み入れたものであり、年度によって増減がある。引継資本金とは、一般会計から企業会計に移行した際に引き継いだものであり、基本的に増減はない。

☆以前の貸借対照表には固有資本金と記載があるが、これは引継資本金と同等の意味か。

●そうである。以前は引継資本金としていたが、監査法人の指摘により、固有資本金に変更した。

○貸借対照表を一般企業目線で見ると優良企業だと感じた。

☆水道事業と比べるとまだまだ企業債の残高はあるが、着実に減ってきている。

資料4裏面の未処分利益剰余金の処分について、資本金に組み入れる部分と減債積立金として積み立てる部分に分かれるとのことだが、減債積立金とは貸借対照表に出てくる項目ではないのか。

●減債積立金は、すぐに取り崩して企業債の償還に充てるため、貸借対照表の項目にはない。

☆積み立ててすぐに取り崩すため、会計上出てくるものであり、貸借対照表の項目にはない。貯金を取り崩して、借金を返すというイメージで理解した。

○下水道の処理区域内人口が増えているのは、農業集落排水事業が統合したことが理由か。

●そうである。

○資料5の5ページの令和6年度の経常収支比率について、目標値は超えているが前年度よりも大きく下がっている。これも農業集落排水事業が統合したことが原因か。

●そうである。農業集落排水事業は処理場等の維持費等の多くの費用がかかるため、このような数値となった。

○今後もこのような数値で推移していく予想か。

●そうである。

☆令和6年度決算は農業集落排水事業が統合した影響で、過年度との比較が難しい。そのため、令和7年度以降の数字もしっかり見ていく必要がある。

●農業集落排水事業について、どの地域が修繕の対象か具体的に教えてほしい。

○横市川浄化センターと矢戸川浄化センターの2つの浄化センターがあり、横市川浄化センターは平成6年、矢戸川浄化センターは平成9年から供用開始している。どちらも30年ほど経過したため、現況調査を行っている。その結果を踏まえて、来年度にどのように修繕していくか計画する予定である。

○農業集落排水事業の地域の下水道について、現時点で処理能力が限界であることがあるが、その点が改善されることはないか。

●農業集落排水事業の処理場は、その地域の当時の人口に応じて大きさを決めている。そのため、人口が増えると処理能力を超えてしまう。農業集落排水事業はあくまで既存の住民を対象にした事業である。

○農業集落排水事業の地域で新しく家を建てようとすると、自身で合併浄化槽を設置しなければならない。昔と比べて住宅の数は変わっていなくても、人口自体は減っているため、新たに住む方々にも下水道が使えるよう検討していただきたい。

☆資料2の4 損益計算書の主な増減内容に記載のある一般会計負担金の減少理由について、「高資本費対策経費に係る基準繰入金の皆減による減」とある。これは農業集落排水事業の統合とは関係ないものか。また、この基準繰入金の収入がなくなても事業として問題ないのか。

●農業集落排水事業とは関係ないものである。今回の諮問にあたって、この高資本費対策経費に係る基準繰入金がない前提で収支計画を立てており、今後10年は問題ないと判断した。

☆総理大臣が変わったことにより、地方への交付金の増額や下水道法の改正などの話が出ている。現時点で上下水道に関することで何か動きはあるか。

●交付金の使い方については、まずは市全体で決める。現時点で上下水道事業として、交付金を使って何かを行うということは決まっていない。

☆何か動きがあれば経営審議会などで情報提供していただけるとありがたい。

4. その他

- ・委員報酬についての説明

(会議終了)